

ふれあいかんだより

1

かわさきし
川崎市ふれあい館

かん

かわさきしかわさきくさくらもと
〒210-0833 川崎市川崎区桜本1-5-6 TEL : 044-276-4800
http://www.seiky-sha.com e-mail : fureaikan@seiky-sha.com

2022.1.1
No.393

くじょうかいけつせきにしや
苦情解決責任者
ちえ かんいじや
崔 江以子
すすき けん
鈴木 健

かわさきししょかん
川崎市所管
みらいきよくせいしやうねんしえんしつ
こども未来局青少年支援室 (Tel.044-200-3083)

キッズスペースでクリスマス会を開催しました。



12月15日(水)にキッズスペースの「クリスマスお楽しみ会」を行いました。8組の家族の参加で、0才から2才までのキッズたちが集まりました。クリスマスバージョンの手遊びやふれあい遊びで、ひと通り体を動かしたあと、絵本の読み聞かせや、こども達に人気の「サンタクロースの5人兄弟」のパネルシアターを楽しみました。サンタの登場では喜ぶ子、びっくりして泣いてしまう子とそれぞれでしたが、全員が無事にプレゼントをもらい、最後はサプライズゲストのダンス披露で締めくくりました。

「地域丸ごと音楽会」に参加しました。



12月4日(土)に、さくらもと地域教育会議が主催する地域丸ごと音楽会で、川崎市消防音楽隊の演奏を鑑賞しました。ふれあい館からは10名近くのこどもが駆け付けました。クリスマスソングや、定番のアニメソングなど、こどもたちがよく知る楽曲が多く演奏され、楽しそうに演奏に耳を傾けるこどもが多くいました。コロナ禍においてイベントが軒並み中止となる中、貴重な体験をする機会となりました。また、演奏の合間に身近な防災についてのお話もあり、大変実りある1日となりました。

舞踊5回講座を開催しました。



花冠舞の講座がはじまりました。宮廷舞踊を模したこの舞踊は長い袖を両腕につけ、優雅に舞う踊りです。韓国・朝鮮には仮面をつけ同じように長い袖を付け舞うタルチュムという踊り・演劇もありますが、タルチュムとはまた別の踊りになります。まずは袖の中に入れる扇を手にとって練習を始めました。基本のステップ、上半身の動き、それぞれを練習した後、あわせて動いてみました。韓国・朝鮮舞踊を初めて経験する参加者の方は戸惑いながらも楽しそうに踊っている姿が印象的でした。年内に前半5回、年明けに後半5回の講座を予定しています。

ふれあい館 1月の予定

こども部門

子育て支援、児童の放課後生活の援助、こどもの学習と文化活動の支援

●こそだて支援・・・乳幼児とおとなのためのプログラム 〈定例のプログラム〉

小麦粉ねんどあそび	6日 (木)	10:00～11:30	色つきのねんどで保護者も一緒に遊べます。 ※アレルギーの方はご遠慮ください。
ぴよぴよタイム	11日 (木)	10:30～11:00	身長・体重を測れます。大きくなったかな？ お子さんの成長の記念にどうぞ。
おはなし会	13日 (木)	10:30～11:00	パネルシアターや大型絵本を読みます。
ホールで遊ぼう	17日 (月)	10:00～11:30	2Fのホールで遊べます。 ボールや車で思いきり遊ぼう！

韓国・朝鮮民族衣装体験

カラフルできれいな韓国・朝鮮の「チマチョゴリ」「パジチョゴリ」体験ができます。写真も撮れます。お子さんの成長の記念にいかがですか？

日時:1月26日(水) 10:00～11:30 ※0歳の子や大人の方も体験できます。

申し込み:電話かスタッフにお声がけください。

キッズスペースろばではママたちの活動中の保育支援をしています。

くわしくはキッズスペースろばまで

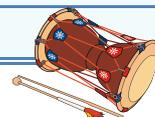
●小中学生プログラム・・・他にプログラムがあるよ♪ くわしくはたより(あそぼ)をみてね

ミサンガ作り	22日 水曜日	15時～	ミサンガをつくります。
--------	---------	------	-------------

ふれあい館の小中学生プログラムは、みんなの意見をもらいながら、毎日のプログラムをたてています。館に毎月のたより(あそぼ)があります。

●民族文化サークル

舞踊クラブ	毎週 火曜日	4時～5時30分	韓国・朝鮮の踊りを習います
ハロハロクラブ	毎週 水曜日	3時～5時	学校の宿題や、色々な国の遊びや文化を学びます。
子どもチャンゴ	毎週 金曜日	4時～5時30分	韓国・朝鮮の打楽器を習います



●中高生の活動

中学生学習	毎週 火・水・木曜	7時～9時	主に新渡日外国人の中学生(水曜日・土曜日)、および 経済的に困難で学習塾に行けない中学生(火曜日・木曜日)の基礎学力保障のための学習会
サポート	毎週土曜	1時～3時	

成人部門

한글入門講座

2021年度 ふれあい館 民族文化講座 前半5回
창고 初級 講座

~読み書き中心に、丁寧にゆっくりと学びます~

韓国・朝鮮の伝統打楽器のチャングをやさしく丁寧に学びます。

講師:李相粉さん

講師:李理恵子さん

日時:2022年1月17日(月)から午後7:00~8:30

日時:2022年1月14日 21日 28日 2月4日 18日

毎週月曜全10回 ※休日の月曜は講座は開催されません。

午後7:00~9:00

定員:15歳以上 20名(先着順)

感染症対策で定員を設けています。詳しくはお問合わせください。

持ち物:筆記用具

申し込み:1月4日(火)10時から

申し込み:12月20日(月)10時から

電話 044-276-4800

電話 044-276-4800

主催:川崎市ふれあい館・川崎市教育委員会

2021年度 家庭教育学級~part1~ 発達の”凸凹”ってなあに?

「こだわりが強い」「お友達と遊ぶのが苦手」「気持ちの切り替えが難しい」「勉強についていけない」など、子育ての不安や心配が増えていませんか?今回は、就学前から学齢期にかけての心や身体の成長や発達の凸凹、そして、その様なお子さんへの寄り添い方について学びます。

日にち	講演内容	講師
2月3日(木) 10:00~12:00	「こどもの成長~心と身体の発達~」	江良 泰成さん (たじま家庭支援センター)
2月10日(木) 10:00~12:00	「凸凹が気になる子 ~どう関わり寄り添う?~」	武居 光さん (地域相談支援センターさらん)

定員:12名 ※お子さんの保育もあります。ご希望の方はお問合せください。

申し込み:メール fureaikan@seikyu-sha.com 電話 044-276-4800

主催:川崎市ふれあい館・川崎市教育委員会

識字学級・・・生活に必要な日本語を学びます

曜日	毎週 火曜日・金曜日	参加費 無料 (教材費は実費)
時間	10:00~11:30	

高齢者部門

在日高齢者と世代・民族を結ぶ交流事業や高齢者の生活相談

在日高齢者交流クラブ「トラジの会」

感染拡大予防のためにマスクを着用しながら活動を再開します。新型コロナウイルスの感染状況や社会状況をみながら活動をします。活動内容や詳細は044-276-4800までお電話ください。

社会福祉法人青丘社では、日本語が壁になって様々な行政サービスにつながりにくくなっている外国につながる方々の様々な手続きをお手伝いする活動を行っています！

●入学を応援してください！川崎区に暮らす外国につながる子どもの入学サポート基金寄付金募集

子どもたちが学校に通うためには、ランドセルや制服・体操着、文房具など準備しなくてはならないものがとても多くあります。これから学校入学を迎えるお子さんを子育て中の、外国につながるご家庭の応援にご協力をお願いします。皆様からの寄付金は、入学準備の資金として活用されます。

●寄付金振込先●

<加入者名> 桜本子ども食堂

ゆうちょ銀行/普通預金/〇九八店/1171412 (手数料につきましては、ご負担ください。)

主催 桜本子ども食堂

事務局 川崎市ふれあい館 お問い合わせ 044-276-4800 fureaikan@seiky-sha.com



●子どもの怪我の昔と今の違いについて。20年前と現在の子どもの怪我を考えると現在の子どもは顔の怪我が多い

気がする。グラウンドで遊んでいて転んだ時、手をつくことができずに顔にすり傷を負ってしまう。その原因の一つに大人たちの子どもに対する遊びのルールの厳しさがあると思う。●大人は自分たちが子どもだったころの経験則から危険箇所を認識して先回りをして注意喚起をするのだが、その瞬間の安全と引き換えに怪我をするという経験を子どもたちから奪ってしまっていないだろうか。もちろん安全に過ごすに越したことはないが、怪我をした経験がない子どもはひとつひとつの怪我が他の子どもに比べて大きな怪我になりがちだ。大人が子どもの遊びを見守る時にはこのことを踏まえたうえで安全に配慮することが必要だと思う。一見、危なそうに見える遊びも子どもは自分で行ける範囲を模索しながら遊び、その過程で起きた怪我や事故などの経験を得て

成長していく。大人は「危ないからダメだ！」の一言でかたづけしてしまうが子どもの成長を考えるならむしろ見守ることと怪我をした後の対応を充実させるべきだ。そして本当に止めるべきは危ない遊びではなく、怪我の経験を奪ってしまった故の取り返しのできない事態になることである。その場合は必ず子どもに分かる説明ができないと「危ない」の一言だけでは子どもからすれば、口うるさい大人の小言になってしまい受け入れてもらえない。こうなってしまうと子どもはさらに反発して結果として大きな事故につながりかねない。●つまり大人が気をつけることはリスクとハザードの考え方であり、見守ることと、止めることの境目を決め、子どもの理解を得られるようにすることであると。この関わり方が子どもの成長を促していくことになり、また子どもの人権を考えることにもつながっていくと思う。そういった意味では大人もまだまだ成長の余地があり、子どもと共に学んでいかなければならないのだろう。